

スタンランの文字のない物語—ジャーナル・ル・シャノワールにおける役割とその広がり

中村大地

目次

はじめに

- 1 19世紀末パリとキャバレー・シャノワール
- 2 サイレント漫画の成立
— ウィレットと同時代の漫画家たち —
- 3 スタンランの「文字のない物語」
- 4 作品分析
— 金魚の漫画と物語の意味 —

まとめ

問題提起

19世紀末のフランス雑誌文化では、漫画やカリカチュアには通常、絵の下に説明文や会話文が添えられていた。しかしキャバレー・シャノワールの機関紙『ジャーナル・ル・シャノワール』では、文字を伴わない **サイレント漫画 (Dessins sans paroles)** が一定の位置を占めていた。識字率が上昇し「文字の文化」が拡大した時代に、なぜ「文字のない物語」が成立し受容されたのか。

文化的背景：シャノワール

1881年、ロドルフ・サリによってモンマルトルに開かれたキャバレー。詩人・画家・音楽家が集まり、風刺やナンセンスを楽しむ芸術家コミュニティを形成した。ここで共有されていた精神が**フュミスム (fumisme)**である。ナンセンス、パロディ、皮肉によって既存の価値観や権威を笑う文化であり、ウィレットやスタンランの漫画にもその精神が見られる。

サイレント漫画の成立

シャノワール新聞の漫画はスタンランだけでなく、多くの画家によって描かれていた。

主な画家、アドルフ・ウィレット アンリ・リヴィエール カラン・ダッシュなど

特にウィレットはピエロを主人公とした **文字のない漫画** を描き、後のスタンランの漫画形式にも影響を与えたと考えられる。

舞台芸術との関係

19世紀フランスでは**パントマイム**が人気の舞台芸術であった。ジャン＝ガスパール・ドゥビュローのピエロに代表されるように、言葉を使わず身体表現だけで物語を伝える形式である。また漫画には**スラップスティック・コメディ** (追跡・逃亡・転倒などの身体喜劇) が多く見られる。サイレント漫画は**舞台芸術の身体表現を紙面に移したもの**と考えることができる。

スタンランの漫画

1884年頃からスタンランはシャノワール新聞で猫を主人公とする漫画を発表する。

特徴 ユーモア 残酷さ 社会風刺

これらはシャノワール文化のフェュミスムと結びついている。

金魚の漫画と文学

スタンランの「恐ろしい金魚の災難」はトマス・グレイの詩“Ode on the Death of a Favourite Cat”との関係が指摘されている。グレイの詩→ 猫は死ぬ→ 教訓で終わる

スタンランの漫画→ 結末は曖昧→ 解釈は読者に委ねられる

つまりサイレント漫画ではモラルが固定されない物語が成立している。

サイレント物語の広がり

シャノワールでは新聞に掲載された漫画が

新聞

↓

文学会（朗読）

↓

影絵劇

へと展開していった。

影絵劇は1886年から1896年にかけて約40作品が制作され、シャノワールを代表する芸術となった。

8 書籍化

スタンランのサイレント漫画は後に『猫たち 言葉のない絵』

として出版される。さらに『Contes à Sara（サラの物語）』

が1898年に木版画集として制作された。部数は50部と少なく、関係者への寄贈の可能性も考えられる。

9 結論

シャノワールにおけるサイレント漫画は

- フェュミスム文化
- パントマイム
- スラップスティック

といった芸術的背景の中で成立した。またこの「文字のない物語」は

新聞 → 文学会 → 影絵劇

という形でシャノワールの文化活動と結びつきながら展開していった。

スタンランの漫画は、単なるユーモラスな猫漫画ではなく、

19世紀末パリの雑誌文化と舞台芸術が交差する環境の中で生まれた視覚的物語表現として位置づけることができる。

【主要参考文献】

- 石子順『カリカチュアの近代』7人のヨーロッパ風刺画家（1993年）柏書房
石澤小枝子他『フランスの子供絵本史』（2009年）大阪大学出版
大澤千加訳『ラ・フォンテーヌ寓話』（2016年）洋洋社
鹿島茂『人獣戯画の美術史』（2001年）ポーラ文化研究所
『鹿島茂コレクション フランス絵本の世界』（2017年）東京都庭園美術館他
鹿島茂『モンマルトル風俗辞典』（2009年）白水社
菊盛英夫『芸術キャバレー』（1984年）論創社 p.45
セゴレーヌ・ルメン『スーラとシェレ 画家、サーカス、ポスター』（2013年）三元社
田中晴子『フュニスム論』（1999年）新書館
田之倉稔『ピエロの誕生』（1986年）朝日選書
ナタリー・セメニク『Chat Noir 魅惑の黒猫 知られざる歴史とエピソード』（2014年）グラフィック社
ハインツ・グロイル『キャバレーの文化史 I 道化・風刺・シャンソン』（1983年）ありな書房
フィリップ・デニス・ケイト『スタンラン展』（1985年）アート・ライフ
フィリップ・デニス・ケイト『陶酔のパリ・モンマルトル 1880-1910「シャ・ノワール」をめぐるキャバレー文化と芸術家たち（2011年）アートインプレッション
フロラン・フェルス『図説 ベル・エポック 1900年のパリ』（2016年）八坂書房
ペーター・フローラ『ヨーロッパ歴史統計国家・経済・社会 上: 1815-1975』（1985年）原書房

【フランス語文献】

- Artistes à Montmartre de Steinlen à Satie :1870-1910* Musée de Montmartre (2016)Paris
Alain Weill *120 ans de Moulin Rouge* (2010)Paris
Champfleury *Les Derniers Jours de Debureau Souvenirs des Funambules*(1859)
La Fabuleuse histoire des nuits parisiennes(2017) Prisma Media
Le Chat Noir 1881-1897 (1992) les Dossiers du Musée d'Orsay
Mariel Oberthur *Le cabaret du Chat Noir a Montmartre* (2007) Slatkine
Philippe Kaenel *Steinlen L'œil de la rue* (2008) Musée Cantonal des Beaux-Arts
Philippe Rollet *Adolphe Willette 1857-1926* (2014)Lineart
Pierre d'Anjou *Histoire de la Chanson Française Au temps du Chat Noir* (1943)Paris
Pierre Lafitte et Cie *Musica* (1908)Paris
Réjane Bargile et Christophe Zagrodzki *Steinlen Affichiste Catalogue Raisonné* (1986)Lausanne
Victor Meusy, Edmond Depas *Guide de l'Etranger a Montmartre* (1900)Paris

【英語文献】

- The spirit of montmartre and modern art 1875-1910*(2014) Smogy art publishers